

弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

看護学部・看護学科
田中 真実

作成日 2024年1月29日

1. 教育の責務

<p>2019年（令和1年）度から弘前学院大学看護学部採用され、人体の構造Ⅰ、Ⅱ（看護専門科目）などを担当するほか、文学部および社会福祉学部の授業も担当している。 担当した授業科目以外には次のようなものがある。</p> <ul style="list-style-type: none">・看護師国家試験対策補講 看護学部 4年 <p>2023年度以前の過去数年間に担当した科目について</p> <ul style="list-style-type: none">・ヘルスサイエンス論（講義）文学部、社会福祉学部・全学				
2023年度担当授業				
科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
人体の構造Ⅰ	1年	講義	前期	人体の構造を2次元及び3次元で学ぶ
人体の構造Ⅱ	1年	講義	後期	人体の構造を2次元及び3次元で学ぶ
ヘルスアセスメント	1年	講義	後期	人体の解剖：人体の部位・器官の位置・方向を学ぶ
医療英語	2年	講義	後期	外国人患者に対する病院内での英会話を学ぶ
生命の科学A	1年	講義	前期	生命の誕生からヒトの成長過程を学ぶ
老化と生体	1年	講義	後期	老化のメカニズムを学ぶ
基礎演習	1年	講義	前期	授業のノートの取り方、資料調整法を学ぶ
卒業論文	4年	講義	通年	看護基盤における論文作成法を学ぶ

2. 教育の理念

大学を卒業して社会人として働いていくためには、様々な知識の取得が必要である。特に看護師国家試験は看護師として働くための最初の関門であるが、そこでは、看護師として働くために最低限知っておくべきことが主に問題が作成されている。大学の講義は限られた時間であるため、全てを網羅することは困難である。看護の最も基礎は正常な人体の構造および機能を知ることから始まる。

1. 人体の構造 I および人体の構造 II の場合

前期授業では、ヒトの体の成り立ちを知るために、細胞、組織、器官および体の各部位を総合的に理解し、更に、機能との繋がりを理解する。教科書では2次元、画像では3次元、動画で3次元CGを視聴し構造の変化を説明できる人を育てることを目指している。後期授業では、顕微鏡を用いた細胞観察、人体模型のスケッチ、体の部位の模型作りを行い、構造の違いを「見抜く力」をつける。この様に「かたち」の成り立ちの面白さを理解させ、自ら課題を抽出し、新たな解決方法を見いだすための基礎となる知識の修得を働きかける。

2. 生命の科学Aおよび老化と生体の場合

複雑な生命の仕組みを学ぶため、体の構造の変化を学び、生命の誕生からヒトの成長過程を学ぶことが出来る。更に、ヒトの体の様々な機能が加齢によって変化することを修得し、ヒトの体の加齢現象を説明できる人を育てることを目指している。授業では、年齢によって変化するヒトの各器官の構造を理解させ、「長生きの秘訣はあるのか？」を、自ら説明できる基礎となる知識の修得できるように指導する。

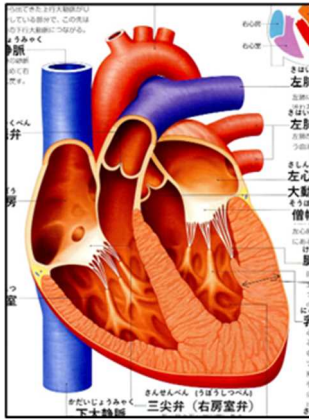
3. 教育の方法

1. 人体の構造 I および人体の構造 II の場合

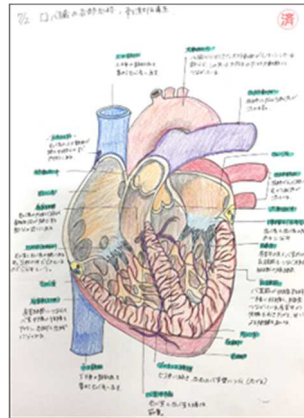
担当する人体の構造は用語や構造を覚えることが主たる目標である。覚えて記憶を定着するためには、分かりやすい教科書およびプリントを利用するのは良い方法であるとされているが、これは学生にとって受動的なものである。記憶を定着するためには学生自身が調べる・考えるといった能動的な作業も効果的であると考えられることから、以下の能動的な作業が生じるような講義を行っている。

①教科書のスケッチ

授業で学んだ主な臓器をスケッチブックに描写し、部位の名称とその機能を記載させ、授業の復習を行っている。



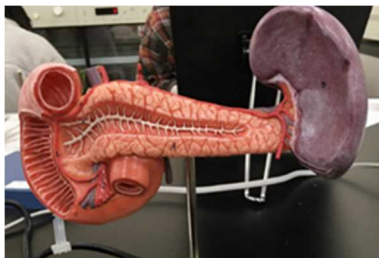
心臓の構造



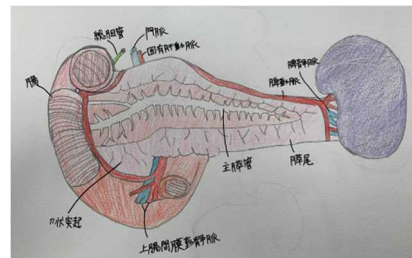
学生のスケッチ

②スマートフォンによる人体模型の撮影とスケッチ

様々な人体の模型から、自分の興味ある模型を選択後、撮影およびスケッチさせ、名称を同定させ、記憶の定着を行っている。



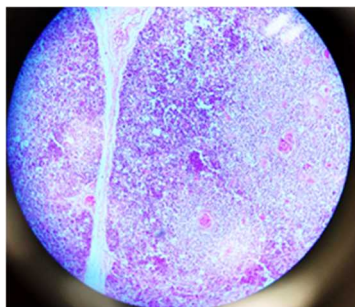
腹部消化腺と脾臓・十二指腸



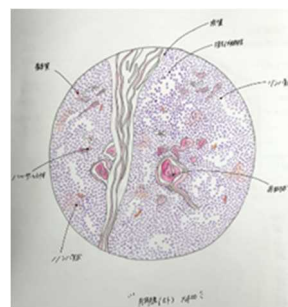
学生のスケッチ

③顕微鏡による組織標本の観察とスケッチ

臓器の組織標本を顕微鏡で観察後、スケッチし各部位の名称を同定する。



胸腺の顕微鏡写真



学生のスケッチ

④体の模型作り

各自人体の模型を作ることで、人体の構造と機能を記憶することができる。

⑤学生の発表会

最後に学生は各々描写したスケッチについてパワーポイントでまとめた内容を発表し、これまでの授業を振り返ることが出来る。

2. 生命の科学Aおよび老化と生体の場合

生命の科学Aおよび老化と生体の授業では、生体の最小単位である細胞の構造から組織そして人体の器官を学ぶ。2次元の教科書はもちろんであるが、3次元の動画を視聴することで、直感的に細胞の構造や機能を学ぶことが出来る。体の構造と機能を学んでから、ヒトの成長過程とさまざまな器官の老化を学ぶことができる。更に、Web上で公開されている最近の加齢メカニズムを学ぶことで、今後の老化を早めないライフスタイルと上手に老いることを意識することができる。

4. 教育の成果

評価について、「授業評価アンケート」結果を踏まえて記す。

1. 「学生自身の自己評価」に関して
 - 1-1. 「シラバスに記されている到達目標や評価方法を読んで知っている」が学部・全学平均値より低かった。
 - 1-2. 「事前学修(予習)・事後学修(復習)に取り組んでいる」が学部・全学平均値より低かった。
2. 「授業担当者に対する評価」に関して
 - 2-1. 「学生の理解度や反応への考慮」は、学生に対して、なるべく理解しやすいように、図、アニメ、CGを使用し解説を行った結果、学部・全学平均値より高かった。
 - 2-2. 「教員の話し方等の聞き取りやすさ」は、学生に対して解説するときは、ゆっくと話し、言葉も分かりやすい言葉を使った結果、学部・全学平均値より高かった。
3. 「授業内容に対する評価」に関して
 - 3-1. 「授業で扱う量、難易度の適切性」は、高校生が理解できる授業から大学生レベルの授業まで、授業内容を誘導しながら行った、その結果、それほど低い評価ではなかった。
 - 3-2. 「教科書、資料、板書の、内容理解への有効性」は、資料が役立っていると高評価を得た。更に、学生がよく視聴しているアニメのキャラクターを使用し解説した。
 - 3-3. 「授業を通じての新知識・技能、専門的思考・発想の学び」は、新しい知識や技能を学ぶことが出来るように、最新のネットニュースから医療に関する話題を引用し解説した結果、学部・全学平均値より高かった。

5. 教育の改善

教育成果の「授業評価アンケート」結果を踏まえて、改善すべき点を記す。

1. 「学生自身の自己評価」に関して
 - 1-1. 「シラバスに記されている到達目標や評価方法を読んで知っている」が学部・全学平均値より低かったことから、シラバスを元に授業を進めるようにする。
 - 1-2. 「事前学修(予習)・事後学修(復習)に取り組んでいる」が学部・全学平均値より低かった。これまで事後学習を主に重点として授業を行ってきたが、今後、事前学習にも力を入れて行っていく必要がある。

担当した科目である人体の構造は、全体的に高い評価を得ている。この授業科目は看護師国家試験に関連する専門必修科であり、重要性が高い。学生には国家試験と将来の医療現場を意識させつつ、基盤となる理論と最新の知見とを兼ね備えて、充実した授業を行う必要がある。

6. 教育の目標

・短期的な目標

授業後に質問に来る学生がいたので、授業中に質問ができるように時間を調整し環境を整える。

講義の感想を書いてもらい、質問事項や意見など、全体で共有した方が良い内容については、できるだけ次の授業時間に学生へフィードバックするようにする。この様にするこ
とで、「学生は自分の意見を取り入れてもらえた」と学生の高評価に結びつく。

・長期的な目標

授業の動画を準備することで、授業後も視聴しできるようにして復習を促し定着させる。グループごとに、課題を与え一人ずつ発表させ、記憶を定着させるようにする。

【資料】

1. 分担担当科目シラバス
2. 講義スライド（心臓の構造：一部抜）
3. 学生のスケッチ（心臓の構造）
4. 脾臓と十二指腸の写真
5. 学生のスケッチ（脾臓と十二指腸の写真）
6. 胸腺の顕微鏡写真
7. 学生のスケッチ（胸腺）
8. 前腕の尺骨、とう骨と靭帯の写真
9. 授業改善書
10. 学生アンケート